

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。



喜多方プラザ文化センター小ホール 喜多方字押切二丁目1番地

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

4/20(日) ①10:30～ ②14:00～

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真映像提供◎ベンヤール会/PMS

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会文化センター事業団

一般社団法人日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



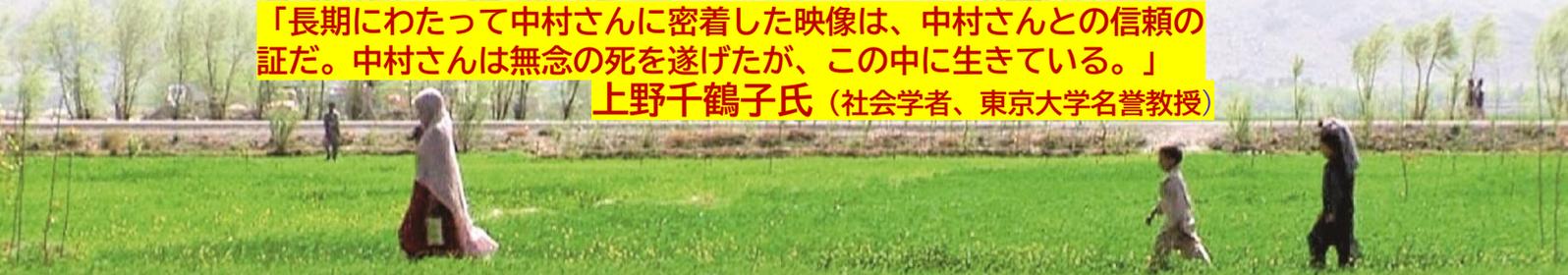
1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



4/20(日) ①10:30～ ②14:00～ *各回 30分前より受付/開場
喜多方プラザ文化センター 小ホール *事前申込制/定員 300名

チケット料金：一般 1,000円 学生 500円 障がい手帳をお持ちの方・高校生以下無料
各回上映(47分)後に、本作品企画者によるアフタートークを予定しています

「中村医師の生き方・働き方と労働者協同組合法から考える未来のまちづくり」

【事前申込制】



左記の QR コードもしくはお電話 (024-952-6051) にて事前にお申込ください
*チケットは発行しておりませんので、お申込の上当日会場で料金をお支払いください
*座席の指定は特にございませので、当日受付順にご案内させていただきます
*QR コードよりお申込の方は、回答のコピーが指定アドレスに送信され受付は完了です

主催：映画『医師中村哲の仕事・働くということ』喜多方上映実行委員会 【問い合わせ】 024-952-6051

共催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 郡山事業所 【受付時間】 平日：10:00-15:00

後援：喜多方市教育委員会(4/20 喜多方上映会)

